



Issue on June 1, 2017

まりこ

VOL.47

発行所：大森学園同窓会
大田区大森西3-2-12
大森学園高等学校内
お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
FAX 03(3766)0314
Mail：info@moriko-kai.jp
URL：http://www.moriko-kai.jp/
発行責任者：大谷正勝
編集責任者：広報委員会
題字：山崎正男先生

特集 母校の地、大森の地域行事で活躍する後輩の皆さん



大森学園のヒストリーと
大田区地元の方々との
繋がりについて

母校は前身校の創立から78年が経ちました。昭和22年の学制改革から70年、何うところ母校の地元大田区も3月に区制70周年を迎えられたとのことです。

母校のこれまでの歩みは先輩諸氏が存じのとおりですが、ここで概略を振り返ってみていきたいと思います。

母校の前身大森機械工業徒弟学校は、昭和14年（1939年）東京市大森区所在の中小機械工場経営者の協力により設立されました。その後昭和17年（1942年）には大森工業学校が開校、機械科を設置、機械科は第一本科（昼間部）と第二本科（夜間部）からなり、例えば第二本科の入学資格は尋常小学校卒で修業年限は5年でした。

その後、前述の学制改革で、工業学校第3学年以下は義務教育の新制中学生となりましたので大森学園中学校と改めました。この中学校には、大田区立中学校がまだ少なかった事情から昭和22年度と23年度の2年間は、区立大森第四小学校から委託生徒を受け入れ、ともに肩を並べて学んだということです。

昭和22年5月には財団法人大森工業学校を財団法人大森学園に改め、同23年（1948年）4月には学制改革で大森工業学校は大森工業高校と改めました。同26年3月には財団法人大森学園は学校法人大

森学園に改め、認可されました。
大森工業高校は全日制と定時制からなり、なかでも定時制は工都大田区ならびに近隣地区の工場等に勤める若人の学び舎として長くその役割を担ってきましたが、志願者の減少により募集を中止、昭和51年度の卒業生をもって休校となりました。

一方、校舎は昭和20年（1945年）4月15日の空襲で焼失しましたので、森ヶ崎（現・大森南）の工場を借りて授業を行い、昭和23年に現在地に戻りました。その後校舎は数度の改築を経て、8階建ての教室棟やイベントホールのある講堂棟が新設され現在に至っています。会員諸氏、特に学窓を離れて多くの歳月を経た方々が現在の母校をご覧になれば、その充実した教育環境に驚かれるのではないのでしょうか。

平成に入り17年（2005年）4月には校名を大森学園高等学校と改め、現在設置する工業科（男子）、普通科（共学）には多くの生徒が学んでいることはご存じのとおりです。

東京の区部は、昭和22年地方自治法施行に先立ち同年3月15日に22区【後に23区】に再編され、地元大森区と蒲田区は一緒になり5月の地方自治法施行で大田区が誕生しました。東京都と東京市は昭和18年に統合され東京都が成立していましたので、これにより母校の所在地は東京都大田区となりました。

母校は永年にわたり地域の皆様との交流

を大切にしていまいりました。昨年も区内で開催された公的なイベントや地元の祭祀など様々な催しにお誘いがあり、学園ではその都度、授業等を考慮のうえお招きに与つてゐることです。生徒のイベントへの参加は様々なことを体験できるチャンスであり、また地域の方々との親睦を深める良い機会となっているようです。そのうえ生徒の積極的な活動は、地元の皆様に大変喜ばれていることとでこの事がさらに交流を密にする原動力となっているのではないのでしょうか。

冒頭に述べたとおり地元大田区は本年3月区制70周年を、母校もあと1年足らずで新制高校に改められて70年の記念すべき年を迎えます。これを機会に今回は、年毎に広がりを見せる母校と地域との交流の様子を特集として取り上げました。この特集から生徒の皆さんの活躍ぶりを読み取って頂ければ幸いです。

地域活動の紹介

母校はボランティア活動が盛んで、生徒は積極的に活動に参加しています。

現在、ボランティア活動は、車椅子のメンテナン、おもちゃの病院、高齢者のインターネット体験教室などが行われています。これらの活動は新聞やテレビ等にも取り上げられましたので、お読みになった方もおられると思います。この活動以外にも母校地域のイベントに生徒の皆さんが参加しており、地域のイベントとして「大田福祉作業所」のふれあ

い祭り・「区立開校小学校」の花祭り・「こらば大森」のお祭り・「ガーデンパーティー」・「OTAふれあいフェスタ」・「町会」・「商店街」のお祭り等なお誘いがあり、生徒会役員、文化部、運動部などに所属する生徒が参加しており、また部活等に所属していない生徒でも希望により参加することもあります。



生徒の皆さんより

平成28年度生徒会役員
二年普通科二組 吉田 道徹

私たち生徒会は、日々のボランティア活動や学校での活動を通して多くのことを学習しています。

ボランティア活動に参加してからは、生徒会に入ってからというものに比べ、自分から仕事を見つけられるようになりました。また、地



域の活動に携わる方々とのコミュニケーションから、その催し物への想いに触れることができました。そしてOTAふれあいフェスタでは、たくさんの笑顔と「ありがと〜」の言葉に、やりがいを感じ、次はもっとみんなが楽しめるように工夫をしようと思いました。

私は大森学園の生徒として、ボランティア活動を奨励して多くの生徒と一緒に、たくさんの経験から、いろいろなことを学んでいきたいと思っています。
そのためにも私たちは日々、成長していきたいと思っています。

平成28年度
ブラスバンド部部长 笹木 幸広
三年工業科二組

私たちブラスバンド部は、学園祭や体育祭などの学校行事の他、地域の行事にも積極的に参加しています。吹奏楽部の活動といえば、コンクールや定期演奏会などのイメージが強いと思いますが、地域の方々の前で演奏する機会も、私達にとってはとても大切なものです。お客さんの年齢層は行事によって様々なので、私達の演奏を聴いて少しでも多くの人が笑顔になってくれるよう、行事ごとに選曲や演出を工夫しています。

これまで参加した地域行事の中で一番思い出に残っているものは、大森町商店街で毎年おこなわれている「サマーフェスティバル」です。私達が演奏していると、通りを普通に歩いていた人も足を止めて演奏をきいてくれたり、曲が終わるたびに小さい子供からお年寄りまで地元の方々笑顔で温かい拍手をくだ

さったりして、本当に嬉しかったです。
音楽には、人々を笑顔にする力があります。私達は、これからも様々な演奏の場で、お客さんを笑顔にする演奏ができるよう、毎日の練習をがんばりたいと思います。



顧問の先生より

生徒会顧問 横田 朋佳



地域のさまざまなボランティア活動を通して、生徒は「一人の心を動かすためにはどうすればいいのか」ということを考えながら活動に参加し、代表の方や周りで支える方々の思いを学ぼうと考えているようです。本校の卒業生の方とコミュニケーションをとる中で、自分の置かれた立場や、学校の代表であるという自覚を持ち始めました。当初は頼まれたから、指示を出されたから動くということが目立ちましたが、段々と自分ができることを探し、自分から動くということができるようになってきたと感じています。

生徒会の会議の中で「地域の方が本当にこの町を大切に思っていることが分かりました。」という生徒の言葉がありました。その思いを感じ、学校という場に意識を変え、これから彼らがどのように活動していくのか。さまざまな活動を通して「一歩一歩成長してほしい」と考えています。

大田区長
松原忠義様より
メッセージを
お寄せいただきました



大森学園同窓会組織「もりこう会」の皆様には、日頃より大田区政に多大なるご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

大森学園高等学校は、ものづくりのまち大田区大森の中小機械工場経営者の協力により、昭和14年、大森機械工業徒弟学校として創立されたことが始まりと伺っております。

創立より「社会に貢献できる有為なる人材を育成する」という建学の精神のもと、自ら学び、考え、それを形にする力を持った人材を輩出してこられ、大田区のものづくりを支えていただくとともに、各分野で活躍いただいております。

また、在学中においては、修理した車いすを海外に送る取組み「空飛ぶ車いす」をはじめ、子どもガーデンパーティ、こ

ぼ大森夏まつり、大田福祉作業所ふれあい祭、全日本学生室内飛行ロボットコンテスト等でのボランティア活動や、OTAふれあいフェスタへのご出展など、ここに紹介しきれないほど多くのご協力をいただいております。その意欲的に地域活動に取り組む姿勢には、頭の下がる思いです。

私は就任より、「地域力」をキーワードとして、区政運営に取り組んでまいりました。

これらの活動は、生徒自らの成長につながることも、地域力の強化にも非常に大きな役割を果たしております。

今日までのご尽力に心から感謝するとともに、今後も地域に根差した活動を続けていただくことを期待しております。

本年3月に大田区は70周年の節目を迎えました。私はこれを、これまでの大変長い歴史と、これから羽ばたく未来への中間地点として、非常に重要な機会と捉えております。

今後、貴会をはじめ、区民や各団体の皆様とともに手を携えながら、「暮らしてよし、訪れてよし、地域力あふれる国際都市おおた」の実現にむけ、大田区をさらに発展させてまいりたいと考えております。皆様には、大田区政への引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、貴会をますますのご発展と、大森学園高等学校関係者の皆様のご多幸を祈念し、挨拶とさせていただきます。

本校の
ボランティア精神

理事長 米澤正倫



本校のボランティアは、まだ工業高等学校であった時に、工業教育で得た知識、技術でお役にたつ活動をしたいと生徒会顧問の先生の指導で取り組んだのが車椅子の修理であります。その後おもちゃの病院・高齢者のインターネット教室と発展し、その活動は新聞・テレビ等で取り上げられ、各種団体から感謝状・表彰状を数多く戴き、その類のない見事な活動に成長しました。もりこう会報で御承知の事と思えます。

ボランティア活動は自主的である無償の行為とされており、小さな活動であっても長続きさせる事が大事であります。本校の生徒達が人のお役にたきたいとの暖かい思いを持つた事が始点であります。先生と生徒が暖かい和で結ばれ、生徒第二の伝統・校風から自然に生まれたものであります。本校の原点である大森機械工業徒弟学校は高等小学校

2年を卒業（現在の中学2年修了と同じ年齢）した少年達が親元を離れて中小工場働きとして勉学をする事への不安淋しさを和らげるようと通学は就業の一部、授業料は工場負担、給料は工場が違っても同じ等々を協定書として入学式において工場主代表と保護者代表が署名調印し、各工場主に約束させました。これがわが国における団体雇用協定の嚆矢と言われております。生徒達は学校を学びの場としてだけではなく、他の工場で働いている同郷の友達と、お互いの工場の様子や田舎の便りなどを話したり、励ましたりするアットホームの場でもありました。徒弟学校はこのような暖かく生徒を第一とする学校でありました。その後制度が変わり大森工業学校となつてもその校風は受け継がれております。少し古い事ではありますが昭和四十年の森工新聞に当時都立航空短期大学長の徳丸芳男先生の寄稿があります。長文なので多少省略して紹介します。「長い間工業教育にたずさわり、たくさんの方の工業高校をやる事ができました。いつも敬服しているのは大森工業高等学校である。入ると極めてなごやかな雰囲気である。先生方が揃って熱心に当たられ、生徒諸君の真摯な態度と和気あいあいたる空気である。人生最上の要素と言われる『和気熱心』をまざまざとこの学校に見出す事が出来る。」以下省略このような徒弟学校時代から受け継がれた、和やかな生徒を第一とする素地があつてボランティア活動が長続きするのであります。

母校ならびに
地元の末永い隆盛を
祈念します

会長 大谷正勝



同窓の皆様におかれましては日々息災で過ごしていることと拝察いたします。日頃は「もりこう会」に対し、暖かいご支援ご協力をいただきありがとうございます。

さて、母校は前身校大森機械工業徒弟学校の創立【昭和14年（1939年）】から数えて、再来年【平成31年（2019年）】には80年となります。徒弟学校から工業学校、戦後の学制改革後は工業系の新制高等学校へ、その後普通科を併置、大森学園高校として今日に至りますことば存じのとおりです。

ところで母校所在地大田区は本年3月、区政70周年を迎えられたと伺っております。母校も新制高校に改まった昭和23年から数えて来年（平成30年）は70年になります。

この機会に地域の移り変わりや母校について、お聞きしたことや地域の資料等をもとに

概要を書き留めてみました。

母校前身校の誕生には、この地（旧大森区、現大田区）の当時の状況が、少なからず要因に繋がっていると推察しております。

母校通学エリアの中心となる東京、神奈川などの関東南部は、古くから大小様々な工場が立地する国内有数の工業エリアとして永く重要な役割を担っています。

なかでも地元大田区は、種々の中小工場が数多く立地する地域として発展してきたことはよく知られているところです。区の資料「平成20年工業統計調査報告」によりますと、区内工場数は約4300、従業員数は35000人余、製造品出荷額は7.796億円に達し、ピーク時の昭和58年における9,190工場には遠く及びませんが、工場数と従業員数は都内市町村中第1位、製造品出荷額では第3位と都内の産業を支える重要な地域となっています。

何故このように工場が多いのか、この答えは前記の区資料に次のように記されています。この地への工場進出は、関東大震災【大正12年（1923年）】で被害を受けた工場等が、都市部今でいう都心部から再起の場所として移ってきたのが発端のようです。

当時この辺りは都心に近い郊外として、土地にはまだ余裕が有り、地価も都心部に比べれば廉価で、そのため工場用地の確保には好都合といったことで進出が促進されたようです。

このような背景のもとで、この地には年を追って大小様々な会社、工場が進出し国内有数の各種工業製品、部品の生産拠点としての役割を持つようになったようです。

前出の区資料によると、当地における昭和初期から20年代の各工場生産物は戦車、機関銃などの軍需品であり、戦後は鍋、弁当箱などの日用品、リヤカー、農具などが主で有ったと伝えています。戦後直近の頃は各工場ともに本来の製品需要は儘ならぬため、鍋、釜などの需要に応じることで、日々を凌ぎ、再建の道を模索したのではないのでしょうか。

当地が工場地帯への途を歩み始めて二世紀近く、大正、昭和の初期にいち早く操業し日本初の機械を、あるいは1号機の製造に携わった会社をはじめ、永年蓄積された優れた技術を武器に今日では業界の有力企業として発展を続ける会社など、区内には産業史的にも評価の高い特色ある企業※が数多く存在していると感じます。

母校はこのような時代、環境のなかで、この地の中小機械工場経営の方々知恵を絞りをあわせて設立された学校です。

従ってこれまでの校歴の大半は、工業系の学校としての積み重ねでありましたが、平成17年に普通科が設置され、以来卒業生の進路はより多様な方向にあるようですから、今後活躍分野はさらに拡大していくものと、大いに期待しているところであります。

本年は既述のとおり地元大田区は区政70周年を迎え、母校は新制高校に改まってやがて70年です。母校には区内出身、在住の生徒も多く、区内の工場等に勤務し、活躍する卒業生も少なからずあり、何かにつけて地元との繋がりは密接であります。

これからも母校、地元共々末永く輝き栄

えることを心より願ひ、会員各位のご健勝を祈念し挨拶いたします。

※補足（各社資料を参考にまとめました）

① 環状8号線に面した現在の蒲田本町1丁目にあたる地に、大正時代に操業を開始した大きな鐵工所が有りました。この工場からは大正10年（1921年）に日本初の船舶用ディーゼル機関が誕生しました。

② ①のところより少々南の仲六郷1丁目の地に、昭和7年（1932年）日米合弁会社が工場を建設、翌8年にはこの工場からわが国最初のエレベータが製造、出荷されました。現在工場の跡地には双方ともに集合住宅が建っていますが、その一角には各々日本船用ディーゼル機関発祥之地の碑と、わが国最初のエレベータ専門工場誕生の地の碑が建っています。

③ JR蒲田駅東口から至近の蒲田5丁目には現在アロマスクエアと称して、高層ビルディングと区民ホール「アプリコ」の建つエリアがあります。ここは大正9年（1920年）、後に日本最大の香料メーカーに発展した会社が創業、香料の製造販売を始めたところだそうです。現在この会社は世界有数の香料会社へと発展、広くグローバルな活動を続けているとのこと。またここには大正9年から昭和11年（1936年）まで松竹蒲田撮影所がありこの近隣地区には著名俳優の住居が有ったと聞いております。

④ 昭和20～30年代に京急雑色駅前でパン等の小売店を営み、のちに製パン業界有数の規模に発展した会社や、昭和13年（1938

年)矢口で創業し今日では自動車、航空機、電子部品などあらゆる分野のねじや部品を製造する会社があります。この社は矢口の工場がテレビドラマの会社のロケ地に選ばれましたので、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

共生
人工知能(AI)との

校長 畑澤正一



卒業生の皆様には日頃より本校の教育へのご理解に感謝申し上げます。グローバル化の波は高校にも押し寄せてきております。本校も長・短期留学制度や交換留学、海外研修や語学研修等環境整備を進めております。皆様の側面からのご支援を切にお願い申し上げます。

今、「第三次AI(人工知能)ブーム」と言われている。仕事の内容によっては、既にAIの能力が人間を上回っている領域もある。チェスがAIに敗れたのは20年前のことであり、将棋そして囲碁においても「コンピュータ

囲碁プログラムが「人間の棋士なら絶対に打たない」と言う手を何度も打って勝利を収めている。また「ロボットは東大に入れるか」の東ロボくんは東大合格はならなかったが、センター模試で受験者の平均点を上回り「MARCH」や「関関同立」と言われる難関私大に合格する水準に達している。東大入試「プレ論述式理系数学」では東大合格圏偏差値76.2を出した。

このような動きのなか、野村総研は2015年12月「2030年には日本の労働人口の49%がAIやロボットに代替可能になる」との試算を公表し、多くの人々に衝撃を与えたことは記憶に新しい。時代の流れの中でAIはますます進化し、社会は大きく変化していくと思われるので、「技術的なことはよく分らないが」AIと共生できるかを考えたい。

機械が仕事を奪うという、「ロボットが家事から仕事から何でもこなしてしまう」とイメージするが、実際には人間の肉体は柔軟で、複雑な動きをこなし、長時間動作もできる。ロボットが人間のように動けるまでにはまだまだ時間がかかり、コンピュータが人間と会話したり、人間のように考えたり、感情を持つということも現実的ではないと言われています。しかし、高度なスキルが必要な知識労働でもAIの得意な領域のものは、近い将来取って代わられる可能性がある。「枠組み」の中でデータを分析する作業はAIが得意とする分野であり、すでに人間の能力を超えている。収集されるデータが爆発的に増加し、データの解析技術も飛躍的に高まっ

ていることが、そのカギとなっている。

例えば、特許を扱う仕事は、高度な知識労働であり、弁理士も大変難しい資格である。しかしすでに膨大な量の特許が存在し、人間が処理するにはあまりにも膨大になっている。しかし、膨大なデータの処理はAIの得意な領域であり、効果が得やすい分野である。会計業務もこの分野であろう。

医療診断においては、医療は高度な仕事であり、医者になるのは並大抵のことではない。しかし、膨大な医療論文を学習させ、「患者の様々な症状や検査データを元に、膨大な数の病気からどれが当てはまるのかを判定する」医療診断はAIが代替できる可能性がある。最も高い分野である。人間の専門医が2週間かかる分析を10分で行う「ワトソン」は、病気の診断を目指しており、将来的には治療法の提案も視野に入れている。

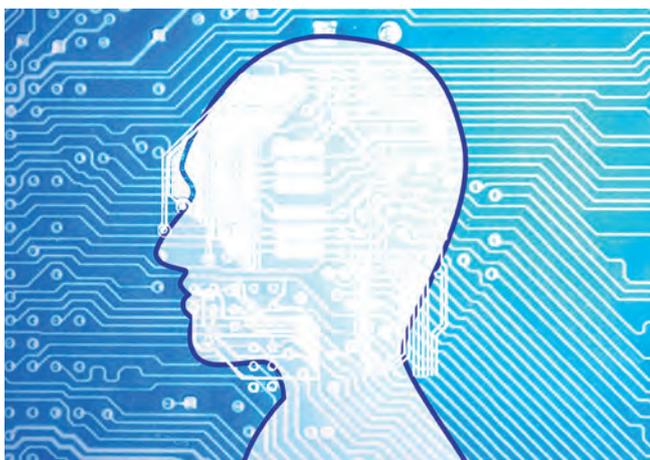
人間がコントロールできない自然や、高度な知識と経験が求められる農業は勘や経験に頼っている部分が多いのが現状である。この分野においても、気温、土の温度、水分量、風速、湿度、日射量など膨大なデータを収集することで栽培を決定したり、最適な栽培方法を見つけることもできる。畜産分野においても、家畜の生体データや活動データを収集・分析し、家畜の状態をデータで管理できるようになる。

私たちの生活を見ると、既に自動車の「自動運転化」の取り組みが始まっている。自動運転市場の将来予測によると、2035年新車販売台数に占める割合は、完全自動運転が9・8%(1200万台)、部分自動

運転が15%(1840万台)となっている。詳細な地図データが必須であるが、自動運転化により交通事故も格段に減少すると見られている。交通事故は人命にかかわることであり(医療においてもいえるが)「責任」という問題は残るが、世界の自動車事情は大きく変わるだろうと見られる。

2030年の日本の姿を考える研究の中で、直面する「労働力不足」問題にも取り組みが行われている。AIやロボットの活用によって労働生産性を高める質的労働の補完としての選択肢が見えてくる。

最後に、AIが職業を代替し得る時代に「人間はどう能力を発揮することが求められる、そのためにはどのような準備が必要なのか」という議論がされることになる。いや、すでにされている。



あの先生は今

一本の道

川端 克己



気が付けば、四十年も経ってしまいました。昭和五十一年に大森工業高等学校に就職して、はやいもので今年定年を迎えることになりました。振り返ってみれば、この四十年間、パソコンと共に仕事をしてきたように思います。私が就職したころは、世の中にパソコンと呼ばれるものがまだ出回っていませんでした。字が下手で書くのが苦手だったので、その頃出回っていたワープロを使っていました。今考えれば、それがパソコンにのめり込む入り口だったような気がします。ワープロに入っていたロータスという表計算なども使うようになり、数年後には、機械科に一台のパソコンが届きました。NECCのPC-80001といっ

8ビットのグリーンディスプレイのパソコンで記憶装置もカセットテープというものでした。その頃は現在のようにパソコン関係の本があふれているわけでもなく、パソコンの本といえば、NHKの教育番組のパソコンの基礎という本ぐらいでした。その本に書いてあった迷路ゲームをベーシックという言葉を使って入力して遊びながら、プログラムの勉強をしたのを今でもはつきり覚えています。その後、新しいパソコンが何台も導入されるようになり、授業でもベーシックのソフトが導入され、学園祭でも簡単なクイズのプログラムを作成しました。さらに時代が進み、製図もCADソフトを使用して、二次元図面を描くようになり、さらに三次元図面や三次元プリンターも導入されるようになりました。そのたびに常に携わってきました。現在ではエクセルソフトを使って、教務の時間割の公表データを作成したり、進路の就職、進学が集計データを作成するようになりました。

私の人生にとって、パソコンは公私共になくてはならないものになり、エクセルソフトについては、少し自慢できるまじりになりました。今年で定年になり来年から第二の人生を歩むことになりましたが、おそらく今後もパソコンと共に歩んでいくことになると思います。今後とどうぞよろしくお願いたします。

旧職員便り 米沢勇作先生の お心

旧職員 木邊 本磨



10年をひと昔と言いますから、私と森工の繋がりには40年、昔を4つも並べる昔であり、拙の人生にとって貴重な時を過し懐かしい思い出とともに、若気の至りであった汗顔の思いも噴出してきます。そんな昔話は、現今の読者に面白くないでしょうかやめませう。

それで今、坊さんをしています。科学技術を学ぶ学校からどうして、坊さんと思われる方があると思います。宗教と科学は一般的には正反対のような存在におもわれますが、しかし意外と共通性があります。原因と結果、これはみなさんが勉強してきていることでしょうか。また日頃考えていることでしょうか。どうすれば良いのか、動くのか、あるいは壊れたのはなぜか、電気やパルスが通ずるか、通じないのか、全て原因があつて、結果が生じます。工業高校で学ぶことは、その原因と結果が割合に単純に結びついています。

この原因と結果が、わかりにくいのは医学

の世界でしょう。病気の原因は酒の飲みすぎとか、タバコの吸いすぎと簡単に言えない場合があります。肺がん患者にはタバコ吸う人吸わない人もいます。何か原因があるのですが、それがすつきりとはしません。医者は遺伝の違いとしますが、本当のところはまだ解明されないのです。医学の世界は要素が多くて原因結果が単純に結ばない事が多いのです。しかし病気の部位は見当が付きやすから、その部位に対応した、処置や薬品で治療します。しかしいつか個体死を迎えます。

宗教は、精神の病に対して治療します。老病死の現実に対して、それを避けよう、それから逃れようとする人がいますが、原因と結果で考えれば、生まれてきた以上当たり前の結果です。当たり前と認識できない方は病んでるのです。この病気は心を転換する以外に治療法はないのです。転換できない人は怖い怖い、嫌だ嫌だといながら、命終わつていくのですがそういう一生こそはいやだと、結果の老病死を受け入れていくその方法が、いろいろの宗教の存在理由でしょう。拙がたずさわるのは仏教です。四苦八苦という言葉がありますが、四苦が生老病死です。そこへ欲しくても手に入らない苦しみ(求不得苦)愛しい可愛いものでもいつかは別れる苦しみ(愛別離苦)、嫌な奴に合う苦しみ(怨憎会苦)、健康な身体のためいろいろな欲望が生じて苦しむ(五蘊盛苦)、これで八苦になります。国語や倫社の時間に習った話です。

人生に四苦八苦がつきものというのは人生が長い人ほどたくさん四苦八苦に避けられない出会うのです。そして最後は自分の老病



在校生時代からサッカー部に繋がっていた私に、ご連絡を頂きサッカー部の監督顧問をされて

話に連絡がありました。田尻先生が亡くなられたとの訃報でした。

昭和56年機械科卒業
サッカー部二元主将 秋葉 美典

「金八先生」こと 齋藤 幸男先生

死。悲観する方もありますが、それでも生きて、何となく働いているのが普通の在り方でしょう。働くのは傍（はた）を楽にするから働くなんで言うのはダジャレですが、働く中に他のため、人のためという精神を持つことは大切な日本人の宗教心で、欧米では見られないものです。車いすの修繕ボランティアを工業高校の教育活動の二環として取り入れると言うのは素晴らしいことです。先代の理事長米沢勇作先生のお気持ちの形になって現れていると感じさせられています。先代の理事長は日本人として持つべき精神をしっかりお持ちでした。ではまた。在職期間（昭和38年4月～45年3月）

聖職である先生の職業。就中齋藤先生の精神「単なる知識の伝達ではなく、正しい知識を豊かに持ち人間として確立され、知恵を開き人格を育む。何よりも生徒が楽しく過ごせる環境を作ろうと努力する」事を目的とすべきであるとの指針に深く感銘致しております。

入部時は緊張感あふれる大変厳しい練習の毎日でした。入部時に66名在席していた部員が3年後の卒業時迄残ったのは僅か6名。その殆どが1年間で20数名に減ったのです。その「過酷」な練習に耐えられた大きい一番の要因が、当時より「幸男ちゃん」と先輩たちから親しまれていた齋藤先生だったのです。その「しごき」を乗り越えお陰様で2年生の時に地区選抜に選ばれその後、東京選抜のテストを受ける事が出来ました。

サッカー部時代完全な縦社会であった為入部時は緊張感あふれる大変厳しい練習の毎日でした。入部時に66名在席していた部員が3年後の卒業時迄残ったのは僅か6名。その殆どが1年間で20数名に減ったのです。その「過酷」な練習に耐えられた大きい一番の要因が、当時より「幸男ちゃん」と先輩たちから親しまれていた齋藤先生だったのです。その「しごき」を乗り越えお陰様で2年生の時に地区選抜に選ばれその後、東京選抜のテストを受ける事が出来ました。



齋藤幸男先生（右）と筆者

忘れもしない一年生の合宿での大変苦しい練習の時間否、合宿中すべての時間がその苦しい時間でした。日頃の練習時もそうでしたが、生徒に寄り添い一緒に苦しい練習に吐き気を催す度に「おうえうー」と言いながら付き合い「頑張りなさい」と励まします。そんな「幸男ちゃん」の笑顔にどれほど勇気づけられ励まされ元気づけられたか知れませんが、凄まじい週間の合宿生活に耐えられたのも齋藤先生のお陰です。

是非とも学校に残り元気な限りその笑顔を在校生たちの心に届け続けて欲しいです！私は体育祭、先生方の競技で「幸男ちゃんー」との声援が鳴り響く「もりがく」を誇りに思い、これからもそんな誇り高き先生と共に大森学園の発展に貢献させて頂きます。齋藤先生万歳！ありがとうございました！

在校生たちの心に届け続けて欲しいです！私は体育祭、先生方の競技で「幸男ちゃんー」との声援が鳴り響く「もりがく」を誇りに思い、これからもそんな誇り高き先生と共に大森学園の発展に貢献させて頂きます。齋藤先生万歳！ありがとうございました！

「第1種電気工事士 資格取得に向けて」

電気科（電気技術コース）に所属する2年生全員が一般家庭・店舗等の低圧屋内電気配線作業に関する資格である第2種電気工事士試験を受験し、毎年合格者が増えてきた。特に、28年の第2種電気工事士の一般合格率が50%を下回ったのに対し、本校の2年生電気技術コース所属の生徒の75%が第2種電気工事士に合格した。これは、4月から行われる筆記試験対策の講習、技能試験対策の講習、そして生徒自身の努力の結果である。次年度も更なる合格者が誕生することを望む。

また、昨年は大森学園在学中には初となる、ビルやマンション、工場などの大規模な電気設備の電気配線作業に関する資格である第1種電気工事士試験の合格者が当時の3年生1名、2年生1名に誕生した。第1種電気工事士は今後の都心部の発展や高層マンションの需要が多く、第1種電気工事士所持者の活躍の機会が増えると思込まれるが、第2種電気工事士に比べ工事範囲が広くなるため、勉強範囲も広く記憶力・応用力が試される試験である。一般合格率も40%程度である中、高校生での合格率は日ごろの努力の賜物であり、就職やジュニアマイスター取得に對



平成 28年度 合格者



平成 27年度 合格者

する大きなアドバンテージとなった。28年度は更なる第1種電気工事士合格者を誕生させるべく、夏休み直後より筆記試験対策の講習会、筆記試験合格者に対して技能試験対策の講習会を実施した。その結果、28年度は3年生1名、2年生6名の第1種電気工事士合格者が誕生した。29年2月時点での第1種

電気工事士合格者は3年生2名、2年生6名の合計8名となった。29年度は、更に第1種電気工事士に挑戦する生徒が増える予想され、それに従い合格者も増えるであろうと予測できる。受験者が一人でも多く合格できるように、我々教員がしっかりサポートする必要がある。

訃報

友野 藤男さんを偲んで

同窓会元会長の友野藤男さんは、平成二十八年五月二十五日、八十四才にて逝去されました。



昭和二十五年、機械科卒業後、友野産業の社長として活躍する傍ら、同窓会活動に参加されて、副会長を経て、昭和四十一年より、平成十三年までの三十五年間、会長として会の発展の為に尽力されました。

その間、特に母校創立五十周年記念事業として、在校生への「潮の光」奨学金制度の創設を始めとし更に、卒業生による在校生への「キャリアセミナー」も推奨されて、現在も毎年行われております。

多年に渡り、リーダーとして数々の業績を残し今日の「もりこう会」の発展に寄与されました。茲にあらためて敬意を表わすと共に

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

前会長 菊池良幸

平成二十八年度中にお亡くなりになられた、旧教職員の方々です。

馬場 信親先生 体育科

平成二十九年一月二十日

八十二歳で永眠されました。

(本校在職期間 昭和三十三年四月

～昭和四十年三月)

小笹 方士先生 工業・電気科

平成二十九年二月二十一日

八十二歳で永眠されました。

(本校在職期間 昭和三十八年四月

～平成十年三月)

白石 隆夫さん 用務

平成二十九年二月二十四日

六十七歳で永眠されました。

(本校在職期間 平成六年一月

～平成二十八年三月)

ここに謹んで、

ご冥福をお祈り申し上げます



クラブ活動報告

運動部

●サッカー部

我々サッカー部は顧問4名コーチ4名のもと、2年生22名、1年生22名の計44名で活動しております(平成29年3月現在)。「人こそが宝」の精神で逞しく心豊かな人材の育成を目指します。

昨年公約に掲げさせて頂いた「幸男先生を西が丘で胴上げ」は果たせませんでした。12月24日に行われた新人選手権の決勝で見



事に暁星高校を破り優勝することが出来ました。5試合で10得点、1失点は大きく評価を受けました。また決勝までも東京高校、東工大附属、正則学園と強豪校を次々と破る快進撃でした。新小岩私学グラウンドには生徒たちの喜びの声の中、宙を3度4度と舞う幸男先生の姿があり、生徒の笑顔に包まれた先生の目にも光るものが見られました。また年間を通して行われたユースリーグでも最終節の首位攻防戦に勝利し、優勝カッ

プを手にすることが出来ました。来年度より
トップリーグに昇格し、更にレベルの高い場で
戦う事となります。

春休みには4月から8月までの期間で行わ
れるトップリーグ(本郷、東亜学園、足立学園、
都府中東、都松が谷、都美原、駒込)、4
月9日1回戦(対東京実業)が行なわれる
関東大会都予選(ベスト32からスタート)に
向けて更なるレベルアップを図るために、多く
の遠征が計画されております。下妻カップサッ
カー大会と古河市全国高校招待サッカー大
会と茨城県の招待大会から始まり市原市招
待ユースカップ、静岡県富士サッカーフェスティ
バル、宇治市招待、福井県U18強化育成大
会と今年度の実績から多くの大会に招かれ
ております。対戦校も東福岡、米子北、丸岡、
星稜、富山一、立正大・大南と全国優勝経験
したそうそうたる顔ぶれです。強豪に揉まれ
て二回りも二回りもレベルアップしてシーズンを
迎えたいと思います。また学校からのご協力
もあり、来年度多くの有望な生徒の獲得に
成功しました。即戦力となる新人たちの活
躍にも是非ご期待下さい。

サッカー部に幸福を運んでくれた幸男先生
は今年度で教壇から下りられますが、まだま
だ引退はさせられません。本校サッカー部の
名誉監督に就任が決まりましたのでこの場を
借りてOB・OGの皆様にご報告させて頂きます。
来年度も幸男先生の周囲を明るくする声と
笑顔がサッカー部の躍進を支えておりますの
で、是非グラウンドに足を運んで頂き、後
輩たちに叱咤激励、また熱いご声援を宜し
くお願いいたします。

●野球部

野球部は夏の大会に向けて主に大田スタジ
アム、多摩川河川敷を中心に練習に励んでい
ます。

最近は大学に進学して野球を続け、活躍
している卒業生も増えてきています。平成25
年度に卒業した竹村光司君は昨年、中央学
院大学で全日本大学野球選手権大会におい
て、1番ショートとして出場、活躍し、準優
勝という栄冠を勝ち取りました。その後秋の
リーグ戦においても千葉リーグでベストナイン
に選ばれ、現在主将として頑張っています。
これからも大森学園の野球部の応援同様、

OBの活躍にも注目、ご声援ください。
なお今年のOB会は、7月1日土曜日18時
より日航ホテルで行います。同期の方をお誘
いの上、是非ご参加くださる様お願いしま

●テニス部

平成28年度のテニス部は、3年生の引退ま
で約50名で活動しました。新1年生が多く
入部し、お互いに高め合うことを意識させな
がら練習に取り組みました。自発的に向上
しようとする1年生の姿が見られ、将来が楽
しみな選手もいます。

昨年度の都大会個人戦で予選決勝まで勝
ち進む生徒もおり、団体戦にも期待してお
りました。過去最高の4回戦進出を目指し
練習に励みましたが、結果は3回戦負け。

あと1勝の所で引退となり、後輩たちは
現実の厳しさを感じたようです。3年生はや
りきった者、後悔の残った者もいたようです。

それでも卒業文集を読んでもみると、それぞ
れ何かを学び引退していった様です。

今年度も4月中旬から個人戦、5月中旬
には団体戦が控えています。過去最高の結
果が出せるよう、1人ひとりの心身の成長を
促していきます。今後とも皆様の応援、よ
ろしくお願いいたします。

●卓球部

イベントホールで週5日練習に励んでいま
し。今年の部員は3年が1人、2年生が2人、
1年生が6(1人は女子)の合計9人で活
動していました。

今年度は練習メニューを大幅に変えて、東京
都でベスト32を目標に日々の練習に取り組ん
でいきました。最新の卓球理論を取り入れ
きちんとしたフォームで打球できるようにな
ってきています。部員全員がやるからには勝ち
たい、強くなりたいという向上心にあふれてい
ています。また練習メニューを生徒たち自身
で改良するなどの工夫、個人の課題を見つ
けられたことが、大変喜ばしい成長です。

これからも、卓球を通して部員たちが成長し
て、よりよい人生を歩んでいってほしいと願っ
ています。

今後ともご支援の程宜しくお願い申し上
げます。

●バドミントン部

平成28年度は、3年生14名(男子11名、
女子3名)・2年生11名(男子7名・女子
4名)・1年生11名(男子9名・女子2名)
の合計36名で活動してきました。コート2面

という限られた環境の中で、ノックやトレーニ
ング等、練習メニューを工夫し皆で協力して
活動しています。

今年度で、女子が団体戦に出場し始めて
から3年目となりました。3年生の引退試
合では、順当に勝ち進み、昨年度同様3回
戦まで進むことが出来ましたが、接戦の末、
敗れてしまいました。2年連続、3回戦まで
進出する力を部全体でつけることが出来たと
思います。

男子の団体戦では、5試合中3試合がファ
イナルまで戦う接戦の末、1回戦で敗れてし
ましたが、3年生が中心となり試合に臨
む姿は後輩の目につかりと焼きついているは
ずです。

2年生が主体になってからも部長・副部長
が中心となり、懸命に練習に励んでいます。
高校1年の4月からバドミントンを始めた初
心者の子も、次第に早いスマッシュを打てるよ
うになり、これからの成長も楽しみです。

また、2月に行われた大田区総合選手権
大会では、個人戦男子ダブルス4部準優勝、
4部3位、女子ダブルス3部3位の成績を収
めることができました。今後より上を目指
して、部員一同頑張っていきますのでよろしく
お願い致します。

●陸上競技部

3年生8名、2年生12名、1年生5名の
20名を越すクラブになりました。

短距離・中長距離・ハードル・走幅跳・砲丸
投に分かれ、日々自己記録更新を目指し練
習をしています。また、チーム競技ではリレ!



駅伝にも取り組んでいます。昨年度は、東京都支部予選会や支部競技会、全国高等学校駅伝大会、東京都予選、東京都支部駅伝といった高体連の大会の他に、大田区陸上競技大会や東京都私立学校陸上競技選手権、六郷グリーン駅伝、日大競技会などの大会

に出場しました。

110mH、走高跳では東京都大会への出場を決めました。選手としてだけではなく、高体連の大会では競技者係として大会運営のサポートも行っています。今年度も、1名でも多く東京都大会で勝負することのできる選手が増やし、また、リレーなどのチーム競技でも東京都大会へ出場できるように頑張ります。今後とも応援をお願い致します。

●柔道部

28年度は1年生4名、2年生2名、3年生3名、軽量級が主軸となるチームでスタートしました。1年生も経験者が少なく非常にチームとしては厳しい状態でした。4月に行われる関東大会予選は先鋒、次鋒、中堅は73kg以下で構成しなければならぬという特殊な編成の団体戦です。軽量級主体の本校はこの大会を中心に考え、選手のモチベーションを高めていきました。団体戦では1回戦、日本大学櫻丘高校に3:2勝利、続く2回戦では強豪、東海大高輪台高校に0:5で完敗。続く都大会決定戦では芝高校に3:1で勝利、東京都大会の切符を手に入れました。都大会では1回戦専修大付属高校に負けてしまいましたが、各自が粘り強い柔道を心がけ良いスタートが切れたと感じました。

10月には大田区秋季大会が、大森スポーツセンターで開催されました。有段者軽量級の部では本校3年生天久君が7人抜き快挙を達成し優勝。西澤君も3人抜きをしました。惜しくも入賞には至りませんでした。

3年生が牽引してくれた部分が非常に大きく新チームは体は大きいものまだまだ精神的にも未熟な部分が大きいです。これから春の錬成大会、そして新1年生を迎え技術面、精神面を大きく成長させていきたいと思っております。粘り強さをさらにつけ、強豪校とも対戦できる技量を身につけ頑張りたいと思います。応援よろしくお願いたします。

●剣道部

昨年度は公式戦で実績を残せていなかったため、今年度前半はいかに結果を残すかが部員達の課題となりました。

昨年度に引き続き部員達はお互いに相談し、練習メニューを改善していきました。その結果IH予選では個人、団体共に支部予選を突破し、都の予選に駒を進めることができました。個人戦では3年生が都の64強という結果を残しました。

3年生の引退以降は、ときに部員同士でメニューを考えながら、ときに剣道経験者の講師の先生にアドバイスを頂きながら稽古を続けていきました。秋以降は初心者も経験者も昇段審査に挑み、女子部員では初めて三段に昇格する生徒も現れました。

新年度も部員一人一人が頑張れるような環境を作っていきたいと思っております。応援のほどよろしくお願いたします。

●男子バレーボール部

今年は、1年生17名(2名マネージャー)、2年生4名合計21名という大所帯となりました。

した。昨年度は2年連続関東大会を狙いましたが、あと一歩の所で届かずベスト32位という結果になりました。新チームに3年生が1人加わり、春高予選に臨みましたが、ベスト16位になるのが精一杯という結果となりました。

また、7月下旬に行われた関東私学大会は新チームで臨み、Bリーグで3位という結果を残すことができました。チーム力は安定しないまま、4月を迎えることになりましたが、選手一同がむしゃらで頑張っていますので応援の程よろしくお願いたします。今年も平均身長がそれほど高いわけでもないのに、拾った粘りのバレーを追求しています。

私学大会では10年連続でベスト16に入ることができ、その結果7月には関東私学大会に10年連続出場が決まりました。これに満足することなくこれからも精進していきますので応援の程よろしくお願致します。

また、退任されました山下先生にも引き続きチームを見ていただいています。

OBOGの方々、練習への参加も心よりお待ちしております。

男子バレーボール部のブログです。よかったら見てください。

<http://blog.boon.jp/ojinadesu/>

昨年度の結果は以下の通りです。

関東予選	都ベスト32位
私学関東大会	Bブロック3位
都私学大会夏	都ベスト16位
都全日本選手権大会	ベスト16位
都新人大会	都ベスト16位
都私学大会冬	ベスト16位
都新人大会決勝大会	都ベスト32位

●男子バスケットボール部

強いと評の高かった先代と比べるとこの代は些が見劣りしてしまう感は否めなかった。2年生6名、1年生10名から成る16名の小規模チームは練習試合をしても負けることの方が多かった。不本意なる怪我に見舞われコート外で自主練を黙々と行う者も相次いだ。何かに八つ当たりをしたいような鬱屈とした心情を抱いた者もいた。それでも直向きにバスケットを続けてきたのは、バスケットが好きだという単純で純粋な気持ちと気の良い仲間にも恵まれたからだろう。そういった雑草のようなチームが開花するにはまだ時間を要するだろうが確実に成長しているのは間違いない。どんなときも陰日向なく応援して下さる方々の想いに応えるため、また次の代に引き継ぐため、全ての集大成ともいえる来る4・5月の公式戦には強い気持ちで臨む。

●女子バスケットボール部

3年前5名で動き出した同好会も現在は週5〜6日練習をする28名の「部」になりました。学年に女子が少ないので毎年部員確保が大変です。初心者が多いですが3回戦突破を目標に日々練習に励んでいます。学校に來た際は体育館をのぞきに來てください。

【部員・28名】

- 3年生 8名(マネージャー1名)
- 2年生 12名(マネージャー4名)
- 1年生 8名(マネージャー2名)

【28年度大会結果】

関東予選2回戦進出VS大成に敗戦

1H予選 3回戦進出VS都府中西に敗戦
 夏季大会 2回戦進出VS都武蔵野北に敗戦
 新人戦 1回戦敗退VS都田無に敗戦



文化部

●パソコン研究部

パソコン研究部はかつて工業科の情報系の生徒が中心だった印象があったのですが、今年度出戻りで顧問になつて最初感じた印象が「普通科の生徒が増えたなあ」でした。今はいい時代でゲームやCGを作るツールも高性能のもが無料で手に入ります。パソコンやネット環境も家のほうが充実していることも多いのです。その気になれば家で一人で作ることが出来るわけです。

普段から生徒に言っているのは「部活でわ

ざわざやる意味」です。運動部に比べればのんびりした雰囲気なのは当たり前ですが、せっかく人が集まっているのだから時に競い合ったり、協力してひとつのモノを作ったり、といった活動も取り込んでいます。現在は四月からの新入生勧誘を見据え、現部員や顧問も登場人物として活躍するようなロールプレイングゲームを合同制作中の方です。新入生がゲームを楽しみながら先輩の名前を覚えられるのではないかと完成が楽しみです。

●放送・演劇同好会

「演劇」には一切興味のない1年生の女子5名が在籍しています。以前のお昼の放送「All Noon Japan」から、「音楽」を楽しんでいたことを主として放送しています。月曜日と水曜日は「邦楽」、火曜日は「アイズー」、木曜日は「洋楽」、金曜日は「アニメ」とジャンルを分けて提供しています。29年度からは、「体育祭」「学園祭」の放送も任せていただくことになりました。いずれは、NHK杯全国高校放送コンテストに出場できたいですね。

●ロボット研究部

1学期は、8月に開催される電子ロボと遊ぶアイデアコンテスト日本予選会に向けて課題の試走コースの作成をし、レゴロボット本体の作成および、課題を攻略するためのレゴマインドストームのプログラムの作成を行い、課題の攻略を目指しました。8月の本大会では、センサーの不具合により完走することができませんでした。

2学期以降は、2年生2名だけの活動となり、8月に開催された「ロボットと遊ぶアイデアコンテスト」の反省点をまとめ、光センサーの問題点やレゴマインドストームのプログラム上の問題点を見つけ出し、次年度に生かす活動に開始しました。来年度こそは、絶対に入賞をめざし、頑張りたいと思います。

●華道教室



華道教室は、今年度で7年目になります。昨年度のメンバーは、2年生・3名、1年生・6名の計9名。古流の灰谷かほる先生にご教授いただいております。活動は年間16回。季節の花材を使ってお稽古しました。日本古来の生け花ですが、クリスマスにはクリスマスらしい花材を用いました。毎年、学園祭と卒業式には自分の作品をイベントホールのホワイエに展示してきましたが、昨年度は卒業式が学校ではなかったので作品の展示はできませんでした。また、学校での活動だけでなく、11月には大田区文化祭の華道展に出展しました。

今年度は、オーストラリアから留学生がやって来るそうなので、華道を通じて国際交流することができるとは期待しています。

●囲碁将棋部

平成28年度は1年生が3名、2年生が1名、3年生が1名と計5名で活動してきました。

主な大会は、将棋部門では春と秋に行われる全国高等学校将棋選手権大会東京地区予選の個人戦に全員がエントリーしています。将棋は、初心者が多く、駒の進め方を知っているくらいでしたが、夏休みから詰将棋を始めるとめきめき上達し始め、大会でも何回か勝てるようになってきました。また、時間があるときには、異なるゲームをして気分転換をしたりします。いつでも和気あいあいとやっているクラブです。

囲碁将棋部では挨拶や先輩、後輩の上下関係などを理解させて社会でも通用する人になれるように指導していきたくと思っています。これからも、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

●鉄道研究部

平成28年度は3年生 5名、2年生 5名、1年生5名の合計15名の部員で活動しました。おもな活動内容として学園祭に向けた大型レイアウト製作やNゲージ車両製作、部員が持ち寄ったの鉄道模型運転会など、週3回の活動を積極的に行いました。とくに、毎年参加している、全国高等学校鉄道模型コンテストでは2年続けて東急沿線を模型化した今回の作品は「池上線・池上駅

周辺」を現地取材から始め模型化しました。特に建物の再現は大変苦労しました。結果は全国から150校余りの参加作品の応募があり、毎年上位入賞を目指して製作していますが、今回の結果は「参加賞」という残念な結果でした。また、今回の夏合宿では3年ぶりに四国・高松「こつでん」貸切電車の運行を実施しました。合宿にはOBも飛び入りで参加してくれました。学園祭では大型レイアウトによる運転会や生徒鉄道写真展示・鉄道グッズの展示発表などを中心にを行います。是非今年も、OBの皆様の来校を楽しみにしております。また、第九回全国高校生鉄道模型コンテストにも参加します。2日間、東京ビックサイトで開催されます。是非、見に来てください。応援よろしく願います。

写真「こと



●自動車部

●WORLD GREEN CHALLENGE 2016

ソーラーカーラリー

8月10日～12日に自動車部が秋田県大潟村で行われたソーラーカーレースに、出場しました。1日約8時間を3日間走行する過酷な競技で車両・人にも耐久性が求められるレースです。今回は天候に恵まれ、車両トラ

ブルもなく順調に大会に臨むことができました。今までの最高記録となる37周925kmを走行し総合5位、クラス2位、表彰台にあがることができました。

記録

- 1日目 11周
- 2日目 14周
- 3日目 12周
- 合計 37周 昨年+5周

大会ホームページ <http://www.wgc.or.jp/>

●Honda エコマイレージチャレンジ2016
9月30日・10月1日に今年も自動車部が栃木県ツインリンクもてぎサーキットで行われたエコマイレージチャレンジ「君はガソリンリットルで日本1周できるか?」に出場しました。今回の大会で学校として30回目の参加になります。今回もオリジナルの燃料噴射制御装置をつけ大会に臨みました。今年も1000km/ℓ超えを目指して頑張りましたが、惜しくも届きませんでした。来年こそは1000km/ℓ超えるように頑張りましょう。



グループII 高校生クラス 148台中 938km/ℓ 19位 (キャブレター)

490km/ℓ time over (インジエクション) ----- km/ℓ 周回なし (インジエクション)

大会ホームページ <http://www.honda.co.jp/Racing/emc/> より上位を、そして完走をめざし2017年の大会に挑みたいと思います。今後も応援よろしく願います。



●模型部

28年度の模型部は新入生にも恵まれ、和気あいあいと活動できました。顧問も代わり、「1年生」として勝手がわからないことも多かったのですが、学年・コースに関係なく全員が協力し、非常に助かりました。

生徒たちが取り組んでいるプラモデルは、依然ガンダムシリーズが人気ですが、近年のゲームやアニメの影響からか戦車や軍艦といっ

たミリタリーものも増えてきています。非常に細かいパーツも多く、神経を使う作業ですが、リアルに塗装し、完成した時の達成感は大いだと思います。学園祭の準備の際は、毎日夜遅くまで残って、一生懸命準備していました。

又、夏休みには地域のものづくりイベントやお祭りの手伝いを行ったり、インターンシップに参加して、会社の方から高く評価された生徒もおります。それらの活動を通じて、コミュニケーション力も磨いていければ良いと考えています。

●美術部



美術部では日々、書きたいものを自由に書いて楽しんでいきます。2学期にはプロのマンガ家の方を講師としてお招きし、「キャラクターをさまざまな角度から書く」という授業をしていただきました。プロから教わる機会を得

られ、生徒たちはいつも以上に熱心にペンを動かしていました。また、3学期には「オリジナルキャラクターを作ろう」というコンクールにも参加しました。残念ながら入賞することとはできませんでしたが、今後いろいろなことに挑戦し、絵を書くことを楽しんでもらいたいと思います。

●ブラスバンド部

28年度は、2年生15名に新入生13名を加えた合計28名で活動をスタートしました。昨年度の活動の様子を簡単に紹介させていただきます。



新体制での最初の大きな行事は5月末、学校のすぐ近くの諏訪神社のお祭りでの演奏でした。6月の体育祭では、一昨年からはじめたダンプレ(踊りながら演奏をする)で、部員たち自ら楽しんで演奏することができました。7月は部員たちも毎年楽しみにしている野球部の応援に参加し

たり、大森町商店街のお祭りで演奏させていただきました。その後、8月の吹奏楽コンクール、9月の学園祭、10・11月の地域イベントで演奏し、12月からは、ブラスバンド部最大の行事である定期演奏会に向け本格的に練習・準備を行いました。

昨年度もたくさんの方の演奏の機会をいただき、ブラスバンド部の活動を通じて部員たちは様々な年代・職業の方々との関わりの中で多くのことを学ぶことができました。また、3月26日に開催された「第4回定期演奏会」には、多くの方のみなさまにお越しいただき本当にありがとうございました。たくさんの方がブラスバンド部の活動を支えてくださったことに感謝しております。今年度も、皆さまに喜んでいただける演奏ができるよう、練習に励みたいと思います。

キャリアセミナー
(ようこそ先輩!!!)
開催

毎年、2年生対象に、活躍されている先輩方を母校にお招きし普通科・工業科各クラス対象に進路選択のアドバイスや貴重な経験談などを約40分間に亘って講演をしていただきました。

今回は平成28年11月9日(水)7時限目のロングホーム・ルームに、10名の卒業生に出席していただき、講演を行いました。写真は卒業生の集合写真・クラス内での講演の様子などです。

(事務局)





新役員紹介

有賀 義孝

平成元年、電気科(三三三)卒業の有賀義孝と申します。卒業時の担任は桐山良二先生、部活は無線部に所属しておりました。



今号の特集について

平成27年の学園祭に顔を出したことがきっかけで、もりこう会を微力ながらお手伝いさせていただくことになりました。まだ、右も左も判らない者ですがよろしくお願いいたします。

広報委員長 渡辺 亮

平成28年6月の総会で副会長兼広報委員長に就任致しました平成14年3月度電気科卒業の渡辺 亮と申します。よろしくお願ひ致します。

母校はボランティア活動が盛んで、地域の行事にも積極的に参加しています。過去にこの会報でもボランティア活動については特集した事もありましたが、地域行事の参加

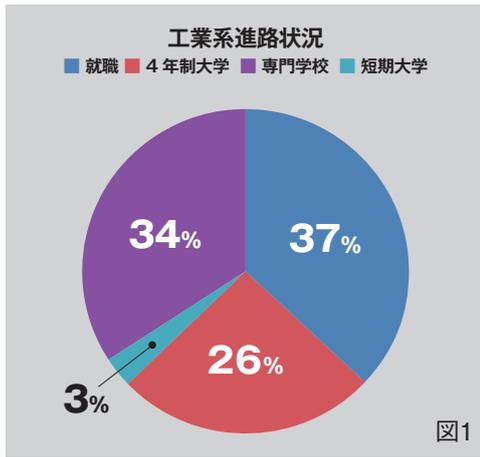


今でも趣味としてアマチュア無線を続けています。当時の部員の方など、私のことを覚えていらっしゃる方が居ましたらご連絡ください。

卒業後は工業団地の電気設備保守管理の仕事をして5年ほど続け、以後現在まで家業の印章店(ハコ屋)を営んでおります。



については活動報告で触れる程度でした。私は大森出身の卒業生であり現在も大森に住んでいます。休みの日などに地域の行事に行くことと生徒の皆さんの活躍している姿を見かけます。また、地域の方から「大森学園の生徒さんは挨拶がきちんとできる」とお手伝い以外の事にもお褒めの言葉を頂き卒業生としてとても嬉しく思います。私が見た中で特に印象に残っているのは平和島で行われているOTAふれあいフェスタです。会場には大森学園のブースがあり、お子さん向けの工作教室などを行っていて親子連れの方が大勢並んでいました。並んでいる人の中には卒業生がお子さんを連れて訪れ先生とお話しをしている場面もありました。また、生徒の中には大勢の人と話す機会が初めての人もいて最初は緊張していたのが徐々に慣れて行く姿を見る事もできました。勉学以外の大事な事を学ぶ機会があるのは良い事ではないかと思えます。これからも勉学が一番大事ですが、できる範囲でボランティア活動や地域活動も大切にして頂きたいと思えます。最後に大田区長松原忠義様はじめ今号にご協力頂きました皆様方へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



もりこう会の同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝で、各方面でご活躍のこととご推察申し上げます。進路指導部より、平成28年度卒業生の進路状況をご報告させていただきます。

今年は全体で385名が卒業しました。就職21%、4年制大学51%、専門学校26%という結果でした。工業科は185名の生徒が卒業しました。就職37%、4年制大学26%、専門学校34%という結果でした。(図1)

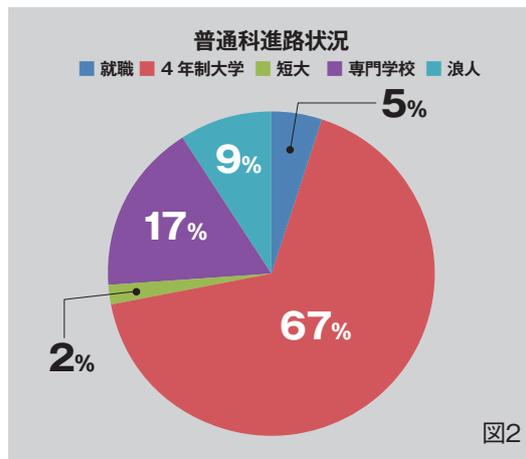
1) 普通科は200名の生徒が卒業しました。就職5%、4年制大学67%、短大2%、専門学校17%という結果でした。(図2) 主な進学先は表1をご覧ください。

平成28年度進路報告

進路指導部長
石川和弘

今年度は、機械関係でジャパンマリンユナイテッド、オリンパス、自動車関係で京浜急行バス、電気関係で関電工、鉄道関係で神奈川臨海鉄道、その他として資生堂や日本郵便などへの合格者が出ています。

今年度も、生徒のための進路指導部として、生徒たちの夢実現の手助けをしていきたいと思っております。



国公立大学	人数
秋田大学	1
横浜国立大学	1
長岡技術科学大学	1
山梨大学	1
長崎大学	1
首都大学東京	1
前橋工科大学	1
神奈川県立保健	1
合計	8

私立大学	人数
早稲田大学	2
東京理科大学	2
明治大学	4
青山学院大学	1
立教大学	1
中央大学	3
法政大学	3
星薬科大学	3
明治学院大学	1
北里大学	2
成蹊大学	3
芝浦工業大学	3
東京農業大学	1
合計	29

表1



もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力のお願いについて

会長 大谷正勝
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

本年もここに関係各位のご協力により、会報 47 号をお手元にお届けすることが出来ました。

本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催など、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。

これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいり所存です。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。

就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。

平成28年度 もりこう会 決算書

(自:平成28年4月1日~至:平成29年3月31日)

収入の部

科目	予算	決算	差異	摘要
①1年生会費収入	1,065,600	1,073,700	▲ 8,100	3579 人月分
②2年生会費収入	1,440,000	1,435,800	4,200	4786 人月分
③3年生会費収入	3,402,000	3,395,700	6,300	4851 人月分
④寄付金収入	300,000	442,000	▲ 142,000	96 件
⑤受取利息収入	3,000	5,034	▲ 2,034	普通及び定期預金利息
⑥過年度会費収入	0	0	0	
⑦雑収入	0	0	0	
当年度収入合計	6,210,600	6,352,234	▲ 141,634	
前年度繰越資金	5,060,280	5,060,280	-----	
収入の部合計	11,270,880	11,412,514	▲ 141,634	

支出の部

科目	予算	決算	差異	摘要
①設備補助費	0	0	0	
②行事補助費	200,000	200,000	0	体育祭補助及び学園祭補助として
③課外活動補助費	300,000	300,000	0	校友会へ補助
④クラス会援助費	100,000	0	100,000	
⑤卒業記念品費	0	0	0	
⑥その他の補助費	100,000	0	100,000	
①会報発行費	1,200,000	1,111,039	88,961	郵送料含む
②総会費	430,000	367,740	62,260	総会・懇親会費用
③卒業生広場	100,000	64,748	35,252	学園祭同窓会会場経費
④会議費	200,000	104,188	95,812	役員会開催費用
⑤ホームページ維持費	100,000	81,216	18,784	サーバー利用料(年間契約)
⑥交通費	300,000	266,000	34,000	役員会交通費として
⑦事務局費	50,000	18,224	31,776	切手・文具等
⑧慶弔費	150,000	113,592	36,408	お祝い1件、香典等6件
⑨キャリアセミナー運営費	200,000	156,500	43,500	卒業生講師に対する食事代
⑩拡大幹事会費	300,000	0	300,000	
①雑費	50,000	29,435	20,565	書類送付切手代金、ハードディスク代金等
予備費	100,000	0	100,000	
①同窓会維持積立金	1,000,000	1,000,000	0	
②記念事業積立金	1,000,000	1,000,000	0	
当年度支出合計	5,880,000	4,812,682	1,067,318	
次年度繰越金	5,390,880	6,599,832	▲ 1,208,952	
支出の部合計	11,270,880	11,412,514	▲ 141,634	



ご協力ありがとうございました

祝

米澤正倫先生の米寿をお祝い申し上げます

本学園理事長・米澤正倫先生には、このたびめでたく米寿をお迎えになりました。先生は昭和26年に本学園にお勤めになり、以来事務長、理事の要職を歴任ののち昭和49年4月に理事長に就任されました。その間、平成2年4月より12年3月までは学校長を兼務され学園の運営に生徒の教育にと八面六臂のご活躍をいただきました。学校長在任中の平成9年11月には、学園に加えて関係団体でのご功績により、私立中学高校教育功労者として、文部大臣より表彰をお受けになりました。平成12年4月からは理事長専任として、なおご活躍中でありますことはご承知のとおりです。この度88歳を迎えられた先生の益々のご健康をお祈りして米寿を祝う会が、本年4月28日教職員・旧教職員等関係者多数の参加により催されました。



撮影：須山貴史



同窓会役員紹介

平成28年度は役員改選の年にあたり、平成28年6月25日開催の総会で次の方々が選任されました。

会長 大谷 正勝 昭和36年 電気科卒
副会長 東野 武雄 昭和47年 電気科卒

山本 隆彦 昭和57年 電気科卒
(総務委員会委員長)

渡辺 亮 平成14年 電気科卒
(広報委員会委員長)

監査 須山 貴史 昭和56年 電気科卒

秋葉 美典 昭和56年 機械科卒

幹事 勝島 憲三 昭和41年 電気科卒

井上 良男 昭和54年 電気科卒

十文字 幸雄 昭和54年 情報技術科卒

丸山 広 昭和57年 電気科卒

須山 健二 平成6年 情報技術科卒

浅沼 徹 平成7年 電気科卒

有賀 義孝 平成1年 電気科卒

顧問 菊池 良幸 昭和36年 機械科卒

相談役 神 秀弘 昭和25年 機械科卒

武藤 清一 昭和27年 電気科卒

大部 幸治 昭和32年 機械科卒

幸山 義紀 昭和35年 機械科卒

事務局 梶山 良一 昭和48年 電気科卒

事務局 芳賀 勝則 昭和49年 機械科卒
事務局 百瀬 浩一 平成4年 電気科卒

★同窓会では若手役員を募集しております。ご協力頂ける方がいらっしゃいましたら事務局までご連絡下さい。



平成29年度もりこう会総会・懇親会のお知らせ

日時 6/24(土)

総会

受付：午後2時

●開会：午後2時30分 ●終了：午後3時40分

●会場：母校 大森学園高等学校

駐車場・駐輪場はありません。

懇親会

受付：午後4時30分

●開会：午後5時 ●終了：午後7時

●会場：大森東急REIホテル(旧大森東急イン)5階

JR京浜東北線大森駅直結 電話:03-3768-6021

◎皆様へお願い

出席の方で電子メールを使える方はお手数ですが、氏名・卒年・担任の先生の名前と出席の旨を同窓会HPのメールinfo@moriko-kai.jpまでお知らせ下さい。

(電子メールを使えない方は連絡の必要はありません)

平成29年度 学園祭のお知らせ

開催日：9月22日(金)・23日(土・秋分の日)の2日間開催します。

時間：午前9時～午後3時(両日)

会場：母校(大森学園高等学校)

～多くの方々のご来校をお待ちしております。～

校舎及び近隣には駐車場・駐輪場はありません。

もりこう会総会・懇親会

